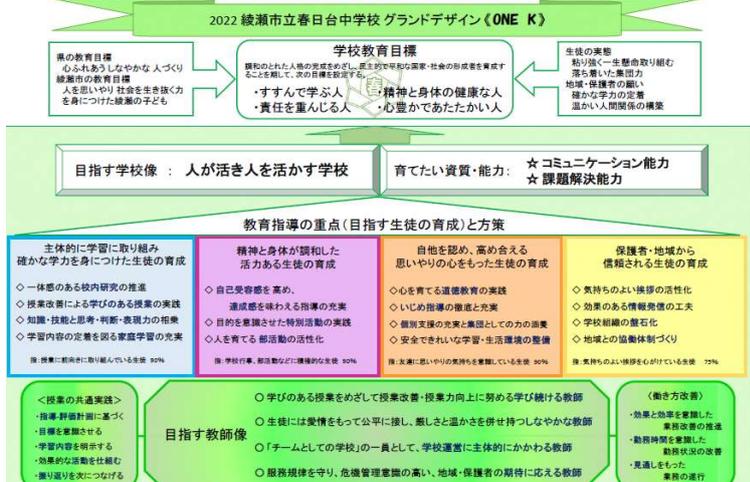


令和4年度 綾瀬市立春日台中学校 学校関係者評価報告書(様式)

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで学ぶ人 ・精神と身体の健康な人 ・責任を重んじる人 ・心豊かであたたかい人 	
学校経営方針 (グランドデザイン)	 <p>2022 綾瀬市立春日台中学校 グランドデザイン (ONE K)</p> <p>学校教育目標: 心豊かであたたかい人、精神と身体の健康な人、責任を重んじる人、すすんで学ぶ人</p> <p>目指す学校像: 人が活き人を活かす学校</p> <p>育てたい資質・能力: コミュニケーション能力、課題解決能力</p> <p>教育指導の重点(目指す生徒の育成)と方策:</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、確かな学力を身につけた生徒の育成 精神と身体が調和した活力ある生徒の育成 自他を認め、高め合える思いやりの心をもった生徒の育成 保護者・地域から信頼される生徒の育成 <p>目指す教師像:</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びのある授業をめざして授業改善・授業力向上に努める学び続ける教師 主眼には愛情をもって公平に接し、厳しさと温かさを併せ持つしなやかな教師 「チームとしての学校」の一員として、学校運営に主体的にかかわる教師 服務規律を守り、危機管理意識の高い、地域・保護者の期待に応える教師 	
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 主体的に学習に取り組み、確かな学力を身につけた生徒の育成 2) 精神と身体が調和した活力ある生徒の育成 3) 自他を認め、高め合える思いやりの心をもった生徒の育成 4) 保護者・地域から信頼される生徒の育成 	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「すすんで学ぶ人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	保護者の肯定的な意見が昨年度より6ポイント下がりました。前向きに取り組んでいる生徒は昨年度と同様に9割弱いるので、学年だより等を活用し、教科のトピックスや課題を載せ、保護者に発信するように努めます。また、教職員もタブレットを1人1台活用できるようにしました。ICTを授業に効果的に活用し、家庭学習を充実させる課題や工夫を教職員で検討し、家庭学習を充実させるように努めます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	多くの生徒が積極的に学校行事や生徒会活動、部活動などに参加しています。学校行事や生徒会活動では、意欲を持って参加する生徒が多く、部活動の加入率も高い割合が続いています。コロナ禍で活動が新しい形で実施されましたが、意欲的に参加していると回答した生徒・保護者が8割を超えています。生徒の主体性を高め、充実した学校生活が送れるようにしていきたいと思ひます。本校のキャッチフレーズである「ONE K」のもと、教職員、生徒、保護者、地域が一体感を持ち、何事にも取り組めるように努めます。
3 児童・生徒指導	学校は、「心豊かであたたかい人」を育てる指導を積極的に行っている。	生徒の97%、保護者の90%以上が「とてもそう思う」「そう思う」と回答してグランドデザインの指標である90%を超えています。教職員においては、その割合が100%を示し昨年度同様に生徒との良好な関係を築く努力を重ねています。今後もよりよい人間関係作りのため道徳教育のみならず、人権教育等の研鑽も積み、「心豊かであたたかい人」の育成に努めます。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	約90%の生徒が「楽しく登校している」と回答しています。今後も、授業や学級活動、学校行事などで生徒が主体的に取り組めるように工夫していきます。生徒の活動や交流を充実させ、生徒同士、生徒と教職員がよい関係を作れるようにコミュニケーションを大切にしていきます。加えて、支援を必要とする生徒に寄り添いながら、学年、学校全体でよりよい集団作りに取り組んでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	日々の授業や学級活動、生活相談等で生徒とコミュニケーションを図り、いじめの早期発見・再発防止に繋げていきます。スクールアンケートでは、回答を複数の教職員で確認し、見落としがないように努めていきます。それに加え、面談や家庭連絡を通して保護者との繋がりを大切にし、生徒の様子や変化等に協力して対応していきます。また、教職員間で日々の情報交換を行い、今後も指導・支援をチームとしていじめの早期発見・再発防止に向けて取り組んでいきます。
6 保健管理	学校は「精神と身体の健康な人」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	生徒・保護者ともに「とてもそう思う」、「そう思う」の割合は、ほぼ昨年度同様の数値を示しています。この結果は、新型コロナウイルス感染症の予防対策が3年に渡って行われている中でも、その時々状況に合わせてながら指導方法を考え、取り組んできた成果だと思ひます。今後も、日々のけがや体調不良、心の健康に留意し、生徒の精神と身体の健康・安全の確保のため、学級担任や養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが保護者と連携を図り、適切な対応ができるように心掛けていきます。

7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設設備の点検・整備に取り組んでいる。	今後も生徒が安全で安心できる学校生活を送ることができるよう、通学路や校内施設、設備等の保守点検を行っていきます。また、今後も気を緩めることなく、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための衛生管理を徹底します。さらに、PTA校外委員会と連携した登校指導やあいさつ運動を継続し、多くの目で子どもたち見守っていただけるよう、地域とのつながりを大切にしていきます。併せて、学活や道徳、避難訓練などを通して、自他の身を守ることできる生徒を育成していきます。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	96%の教職員が生徒に対する支援の工夫をしていると答え、年々支援体制への意識が高まっています。来年度も生徒や保護者と面談する機会を大切に、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築いていくよう努めます。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係諸機関との連携を図り、チームとして支援ができるように情報交換をしていきます。また、職員研修等を充実させ、教職員のスキルアップを図り、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援に向けて取り組んでいきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営になっている。	今年度は、学校経営方針（グランドデザイン）に示された学校教育目標達成のため、各グループの総括教諭を中心に各所掌事項を工夫改善し、新型コロナウイルス感染症に配慮しながら、教育活動を予定通り実施することができました。今後も、ミドルリーダーが活躍できる、より組織的、効率的、機能的な学校運営組織の活性化を図り、連携協働の学校運営を目指し、全教職員が一体感を持って教育活動に取り組めます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	新型コロナウイルス感染症の影響から、集合研修の機会が減少していることに加え、オンラインによる研修については、十分な効果が得られないという現状があります。そのため、校内で実施できる研修が大変重要であると考えます。今後も校内研究、道徳教育、生徒理解等の充実を目指し、より効果のある研修会を企画・実施するなどして、教員の総合的な指導力向上に努めるとともに、学校教育目標に掲げられている目指す生徒の育成に全教職員で取り組んでいきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	これまで「学校教育目標」や「教育指導の重点」で示された生徒像を目指して、教育活動を行ってきました。肯定的な意見の教職員は100%となり、意識の高まりが見られました。これは、一昨年度から導入されたグランドデザインを教職員が理解し、浸透してきた結果だと考えられます。日常の授業だけでなく、道徳、学級活動、生徒会活動、部活動等において、3年間を見通しながら計画的・継続的且つ効果的に行うことで、知・徳・体のバランスのとれた、人としての成長をした生徒の育成を目指します。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	昨年と同様、保護者の肯定的回答が8割を大きく超えています。情報配信やタブレットによるオンライン配信により発信した情報が保護者に届く確率が上がったと考えます。今後も発信する情報をより精査するとともに、発信の仕方も工夫して本校の教育方針や教育活動また授業の様子などいっそう保護者に理解していただけるよう努めていきます。また、2年目に入るコミュニティスクールでは、地域との連携・協働のありかたの検討を進め、さらに努めていきます。
<p>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの「お子さんは、学校の学習にすずんで取り組んでいると思いますか。」の保護者の肯定的な回答が低い理由はなぜか。 →保護者が日常の授業等の取り組みを知る機会が少ないためと考えられる。来年度はたより等で授業や学年の取組を積極的に発信していく。 ・企業でもオンラインの配信を見て学ぶことができるシステムを構築しているが、学校ではどうしているか。 →学校ではTeamsを活用し、修学旅行説明会や進路説明会、一部の授業の板書や作業の様子を配信している。一定期間、また繰り返し視聴できる等のメリットがあり、今後も有効に活用していきたい。 ・コロナ禍において、不登校は増えたか。 →現3年生は入学当初休校から始まったため、SSTなどが充分に行えず、なかなかクラスになじめない生徒もいた。年度当初のクラスづくり、学年づくりの活動は大変重要なので、十分な時間を確保したい。 ・グランドデザインの指導の重点の振り返りについて。 →グランドデザインの指導の重点については概ね達成できたと感じるが、設定した指標に届かなかったものもある。手応えを感じている教員は多いので、良い評価を生徒に返したり、生徒の様子を積極的に家庭に伝えたりして、生徒の自己肯定感を高め、保護者の理解を深めていきたい。 ・春日台中学校の生徒の様子について、地域から見てどうか。 →生徒はしっかりとあいさつをしており、地域の方にも評価されている。教員の思いが生徒に伝わっていると感じる。マスクが取れれば、お互いの表情が見えて、より気持ちが伝わるようになると思う。 ・来年度はさらに地域と連携をとり、学校から良い発信ができるようにしていきたい。 		